

— 2023年度 —

審判インストラクター トレーニングセンター

年間研修内容

プラクティカルトレーニング





2023年度年間 スケジュール

- 第1回 2023年 5月13日 三木市内
- 第2回 2023年 6月 3日 洲本市内
- 第3回 2023年 7月15日 三木市内
- 第4回 2023年11月18日 三木市内
- 第5回 2023年12月 9日 洲本市内
- 第6回 2023年12月10日 洲本市内
- 第7回 2024年 3月10日 神戸市内
- 第8回 2024年 3月23日 三木市内



第1回

2023年 5月13日(日)
三木防災公園

2023年度は昨年度のメンバーから1名入れ替えた形で受講者が揃いました。

ほとんどの方が2年生となり、過去の学習成果をどれだけ出せるかが試された今年度。

成功と失敗を繰り返し、課題に挑んだ6人の物語が、ここ三木防災公園から始まった。

初回は関西インストラクタートレーニングセンター（以下、「イントレ」と表記）と共同開催となった上に日本協会の広報からも取材が入り、より注目度・緊張度が高まった回となりました。

[ご参考]2022年度の活動報告

<https://hyogo-fa.gr.jp/news/7897/>

プラクティカルトレーニング（以下、「PT」と表記）とは....

試合の一場面を切り取り、それを繰り返し再現する中で実際のレフェリングと同様の緊張感を持ちながら審判員が監視・判定すべきことを習得する反復トレーニング法

関西イントレ との共催

開催2週間前に2名へテーマが与えられました。

当日は、関西イントレ受講者3名が先にパフォーマンスを披露され、次いで④「オフサイド」--小河INS、⑤「ファウルの見極め」--塚本INSの順番で実践に挑みました。

※INS=インストラクターの意

実際の試合でエラーが起こり得る場面を想像・想定したプランを練り、事象が出た際にどう対処できるか、インストラクターが審判員に気づきを与え、修正するためのポイントを解説できるようになるのが、イントレ研修の狙いの1つでもあります。



デモンストレーターは、U-15の20名。プランした内容を実現させるためには、「説明」と「テストプレー」が最も大事とされています。

審判員の判定が正しいのか否か。時折プレーを止めて、説明/指導したり、デモにも修正を掛けたり、時間配分を考えたりと、20分間でする事は満載。

トレーニングを終えた後に審判員から感想を聞き、エラーが起こった時の対処法や競技規則への理解、落とし込みを図ります。

トレーニングを終え、会議室に戻ってきて全体での振り返りを行いました。出来た事、出来なかった事、どうすればそれを解消/解決できるのかを再考しました。

第2回

2023年 6月3日(土)
アスパ五色

2022年度は全8回の内、講義+プランニング
が大半を占めていた経緯もあり、2023年度はその
反省を活かして、極力実践経験を積むように取
り組みました。



県審判員委員会の強化月間 とも言える「淡路研修」へ イントレ部隊も合流

毎年6月に開催している<淡路研修>にイントレ部隊も合流。朝の集合後、山本委員長から分析力/指導力の向上、今後の活動への期待が寄せられた挨拶がありました。

午前中は①試合観戦→②試合分析/評価→③事象分析→④主審に関する課題抽出→⑤PTのプランニングに繋げる、といった流れで進められ、午後からは事前に与えられたテーマを元に3名の受講者がPT実践にあたりました。

デモンストレーター役のU-15選手に各プラン内容を説明し、模擬練習するも本番では思い通りの事象が起こらず、困惑する審判員とINS。ファウルが同時多発、テーマと違う反則が起きるまたは全く起こらない等、INSもうまく修正できるスキルもなく、空回りした感が否めない。改めて導入説明の難しさに直面する回になりました。



テ
ー
マ

- ◆プレーの予測 (塚本INS)
- ◆ゴール前の監視 (佃INS)
- ◆ファウルの見極め (神田INS)





第3回

2023年 7月15日(土)
三木防災公園

3級認定講習受講者が今回のトレーニングにお付き合いいただき審判員となりました。

タクティカルファウルの見極め、ポジショニング、懲戒罰の判断と選択等、昇級者に見合った指導を心掛けました。



午前中はプランニングした案を全員の前で発表し、フィールドシートを使って意見交換した上で、その場でブラッシュアップを図りました。

出来上がったプランを引っ提げて、いざグラウンドへ。

今回は3級認定講習との合同開催でしたので、多くの審判員が集結していました。

一番手である小川INSからはテーマ：<オフサイドの判定（ディフレクションか意図的プレーか）>が行われ、オフサイドポジションにいるFWに対して、DFがプレーした後にFWにボールが渡った場合、それぞれの場面でオフサイドを適用するか否かを判断するトレーニング、指導を行いました。その中で不安そうに首を傾げながら判定している審判員には都度「今のプレーはどう見ました？」「ディフレクションの定義の中のどの条件に当てはまります？」等の声掛けし、理解を促していました。

エラーが 起こった時に どう伝えるか？

二番手の塚本INSは<タクティカルファウルの監視>をテーマとし、戦術的な反則を選手が行った際の判定/対応について、指導しました。

三番手の神田INSは<カード提示>をテーマに警告/退場の場面を演出し、それに基づいて懲戒罰を与えるトレーニングを行いました。





県トレとの合同開催となった第4回目。
デモンストレーターとして、地元のサッカークラブ(U-15)の協力を得て、2テーマを実践しました。

前回の3級認定直後の審判員とトレセンメンバーとは、若干経験値が違うため、スキルに合わせた指導法が試されます。

第4回

2023年 11月18日(土)
三木市緑が丘スポーツ公園

県審判トレーニング センターとの合同開催

2級/2級候補の審判員に対して、指導する側も前回に比べて使用する用語、位置取り、スピード、判定精度もより深い考察と実行力・表現力（指導力）が必要となります。

「その判定の根拠は？」「オフサイドだった？」「今の位置で良かった？」「副審からはどう見えた？」「OK!」「イイ判断」「合ってるよ」「で、その後に再開方法と位置は？」等、グラウンド全体に響き渡るようINSが声掛けし、それに審判員が答えながら正誤を確認しつつ実践回数を重ねていきました。



主講師の吉岡氏は実践開始から終了までを細かくメモされており、振返りで各受講者へ適切なご指導をしていただきました。

デモンストレーターへの内容説明と模擬練習が肝。短時間に実行してもらいた事を的確に伝える必要があります、思っている以上にこの作業が実に難しい。

PT成功の鍵を握っているとも言えるデモンストレーター。思っている事象が出ない時は、一時中断し修正する時間を設ける勇気も必要。

振返りでは、実践回数、内容の濃さ、誤審した際の指導、声掛けのタイミング、立ち位置、時間管理等、多岐に渡って分析/評価されます。

第5回

2023年12月9日(土)
アスパ五色

恒例の年末淡路研修に関西協会審判委員会指導者部から【出前研修】として佐古講師がお越しになり、レクチャーを受けました。持参された過去の試合映像を全員で見て、主審の課題点/良かった点を3つずつ挙げるとともに評価点を付けます。ここで指導者間で大きなバラツキがないよう特に重要となるシーンはしっかりと分析を行った上、判定や全体評価に関して統一見解を持つ事ができました。

午後からは翌日行うPTの発表を行いました。

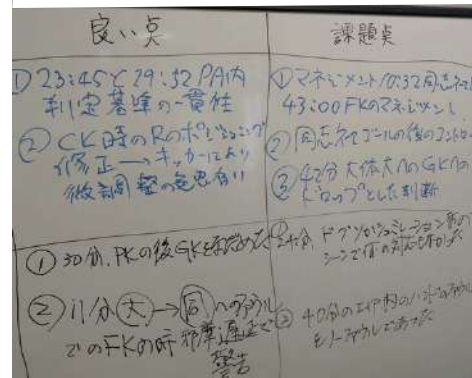
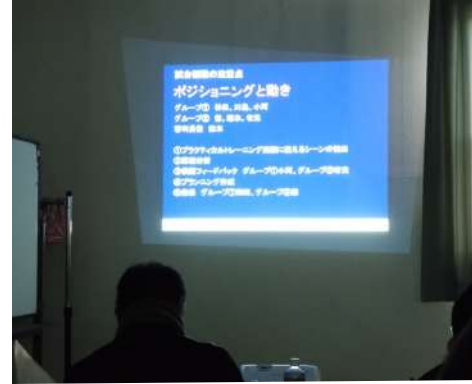




関西協会の佐古講師から映像を用いた講義が行われ、右の写真のとおり主審の良かった点/課題点をホワイトボードに書き、全員で分析しました。またGKとの接触シーンにおいて、見かたによっては警告もしくは退場になる微妙な事象についても細かく分析し、その能力向上に努めました。たった1つの接触であっても得点に関わる事象については、評価点が大きく異なる事を改めて認識出来ました。

映像分析の後は実際の試合を観戦し、その試合で主審をされた審判員をイントレ受講者1人が成りすまして、模擬振り返り研修を行いました。(右の写真参照)

午後からは事前に与えられたテーマを発表し、ブラッシュアップを図りました。全員から色々な考えや知恵を貰えるため、やるべき事が明確になり、良いトレーニングに繋がります。





第6回

2023年12月10日(日)
アスパ五色

前日は主に講義や分析に時間を費やしましたが、この日は朝から簡単にブラッシュアップした内容を全員で共有し、場所を外に移し実践へ。

堤INSはPT初実践ではありましたが、圧巻のパフォーマンスを見せる事に。

テーマ①ゴール前のポジショニング

メイン：小河氏、サブ：神田氏

テーマ②FKマネジメント

メイン：堤氏、サブ：佃氏

テーマ③Rサイドでのポジショニング

メイン：塚本氏、サブ：川島氏



PTの実践は1セッション30分で括られ、標準時間として、デモンストレーターへの導入説明3分、模擬練習7分、審判員への説明1分、実演16分、まとめ/振り返り3分、とかなり凝縮された内容となっています。

これに加えて、重要視されている【実践回数】も意識してやらないと審判員の待ち時間が増えるだけで、これでは何のためのトレーニングか分からなくなります。そのためには、狙っている事象をしっかりと起こさせ、いかに効率よく回すか、エラー（誤審）が起こり得る状況を作り出す演出、修正する際の助言・指導力/語彙力が、INSには必要となってくるのです。



第7回

2024年 3月10日(日)
県協会大会議室

最終段階を迎え、各テーマに沿ってプランを立てた3名が、
全員の前で説明を行った第7回。

講師/受講者間で意見交換し、ブラッシュアップを図った。



総仕上げの準備段階へ



◆川島INS=主審と副審の協力

「オフサイド」インパクトを考慮事項に基づき、正しく見極めて判定できるかを指導。

…>

川島INSの事象は、GKの視線を遮る形でオフサイドポジションにいるFWが、向かってくるボールに対してどう関与しているかを正確に判定できるか否か。副審との協力が不可欠。

◆佃INS=マネジメント

試合中におけるペナルティキック判定後の「適正なマネジメント」「コントロール」に焦点を置き、指導。

…>

佃INSの事象は、PKの判定後に起こり得る状況を再現。蹴る前の飛び出し、選手間の対立、GKの飛び出しや威嚇行為など、多岐に渡った。

◆神田INS=得点機会の阻止

得点に繋がりそうな場面を作り、4条件を満たしているか、懲戒罰の選択・再開方法を指導。

…>

神田INSの事象は、GKとFWの1対1の場面を再現させ、正当にボールにチャレンジしているか、それとも手を利用して相手を倒しているか、またその行為がエリアの外か内かをしっかり見極めないといけない。



「この2年間で習得してきたものをここで出し切ってください。」と集大成を要求する内橋指導者部長。

受講者全員が心の中で、そっと頷いた。

実践前の説明で使用するフィールドシートとマーカー。審判員のスタート地点と導線、デモンストレーターの配置、ボールの軌道をこのシート上で表現した。

実際に誰がどのようにして動くかをマーカーを使って実演することにより、イメージが湧き易くなる事で、良さや課題点が浮き彫りになります。

他者からの意見にも耳を傾け、どうすればテーマに沿い、やりたい事象が一番効率良く出る状況になるのかを検討する場面。



第8回

2024年 3月23日(土)
三木防災公園

イントレ活動最後となるステージは、三木防災公園陸上競技場。
2024シーズン開幕前研修と合同開催となりました。

2年の集大成 をここで

3名による実践

小雨が降る中、PTがスタート。
当日はデモンストレーターの都合がつかず、参加審判員がその代役を果たす事となりました。PT経験者ばかりでしたので、説明した内容をすぐに理解した貰った事で、どのパートも比較的スムーズに事象が起きました。

但し、全ての項目がうまくいったとも限らず、エラーが起きた判定に対してINSが言葉足らずになってしまった場面もあり、課題点が残った。





関西協会 審判委員会 指導者部 吉岡氏

2年間お疲れ様でした。進め方もさまになってきた。事象も多く出てきている。研修はこれで終わるが、歩みを止めないで欲しい。



関西協会 審判委員会 指導者部 梶山氏

皆さんの成長を感じました。
PTだけじゃなく、全体的な指導力を上げていく事が大事。



指導者部長 内橋氏

国内においてPTを県管轄で実施している地域はないと聞いている中、兵庫の取り組みとして2年間継続出来た事は、「1つの成果」であると感じている。次はこの経験を活かし、県内に広めるよう尽力をお願いします。



指導者部 中村氏

更なる成長に期待したい。分析力を上げて欲しい。審判が「楽しい」と思わせる内容を実施していただきたい。





審判委員会 山本委員長

お疲れ様でした。

PTは誰がやっても難しい。ここで学習した内容を次は県を含め、各都市協会の研修で披露・伝えていただきたい。

単発で終わっていけない。期待している。



受講者 小河氏

何度も打ちのめされたが、その分やり甲斐もあった。デモへの説明、事象の発生、審判員への落とし込みが難しかったが、うまくやれた時の達成感は格別だった。



受講者 川島氏

やっていく中で苦手意識があったけれど、プランの作成も出来るようになり、少し自信がついた。審判員の考えや意見を引き出す力が足りていないので、そこを改善していきたい。



受講者 堤氏

一年しか参加できなかったけれど、難しさと感じる事が出来た。

PTはメインINS/サブINSの協力が必要であり、デモ・審判員ともうまく連携しないとうまく回らないと実感した。



受講者 佃氏

難しさは常にあったが、初回からすると一定の成果、成長できたと思っている。デモへの説明がうまくいかず、事象が出ない時は焦ったけれど、その分修正力が上がった。良い経験が出来た。



受講者 神田氏

実技タイプのトレーニング・指導は私には合ってた。実践においては、説明から振り返りまでの30分が余りにも濃厚で難しさや奥深さを感じた。この2年間の研修で得た物を次年度へ活かしたい。



受講者 塚本氏

沢山課題を貰った。楽な回は一度もなかった。与えられるのではなく、与える側となるよう頑張った。PTであっても振り返りにはチュータリング手法が必要であると感じた。

最後に

最初はプランしていた事象が起こらず、ただ時間が過ぎるだけのPTでしたが、全16回を終え、プランニング、デモへの説明と反則行為、審判員への指導、軌道修正力も回を重ねるに連れ、形になったように思います。

ご指導いただいた講師の方々に感謝申し上げます。